主日の福音 2025/8/31(No.1372)

年間第 22 主日（ルカ 14:1,7-14）

末席に座ってあなたと食事を共にしたい

8 月の日曜日、今年は 8 月 31 日まで日曜日が回ってきました。31 日までミサとなると、お賽銭を郵便局や銀行に納めるのは 9 月 1 日以降になります。私はこういう所は神経質なので、8 月のお賽銭を 9 月に入れるのは納得がいかないのです。中田神父のわがままですからこれ以上言うのはやめましょう。

今から 6 年前、コロナの関係でミサが中止になることがありました。中止になったり再開したりでしたが、この少し前頃から、私はミサを収録し、公開するようになりました。とある日曜日、信者のまったくいないミサでしたが、私の心の中では、よからぬ思いと本来のあるべき思いと両方が浮かびました。「よからぬ思い」とは、非公開のミサをささげ、それを YouTube にアップしたところ、通常 80 回ほどの視聴回数が 240 回を超えました。

一人で喜びたいなら、非公開のミサを選ぶでしょう。たくさんの方に観てもらえているのですから。しかし、一人でミサをささげる寂しさはたとえようもありません。もちろん、参加できないすべての人と、心を合わせてはいますが、人間ですからそれを目で確認できないままミサをささげても気持ちの入り方が違う気がします。

「招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。」（14・10）「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。」（同 13）この箇所を読み返しながら、今回初めて、自分が初めての教会に赴任して間もない頃の出来事を思い出しました。

もう 30 年も前のことです。広い管轄区域の信徒と親睦を深めるため、宴会の席もしばしば開かれていました。司祭の霊名のお祝い会、敬老会、さまざまな機会に食事とお酒の席が設けられました。浦上に入って一年目、主任神父様と先輩の助任神父様たちはそれぞれ思い思いの席に出向いて、信徒の皆さんに飲み物を勧めていました。司祭に飲み物を注がれた信徒はきっと嬉しかったでしょう。

しかし私は、先輩たちのように気軽に信徒の席に飲み物を勧めに行くことができませんでした。まだ誰も、顔を覚えていない中で、お酌をしに行くのは私には不可能でした。身動きできないでいる自分にショックだったことを覚えています。会場は賑やかに盛り上がり、宴もたけなわなのに、私一人司祭の座る席から動くこともなく、茫然としていたからです。

あとで分かりました。先輩たちも新人の時に同じ思いをしたし、当てもなく注ぎに行っているのではなく、声をかけやすい信徒に上手にお酌をしに行っていたのです。そうやって先輩も自分たちの姿を見せながら、私の自発的行動を促していたわけです。しかし私はなかなかセルフ・スターターになれませんでした。そこは本当に苦労した点でした。

主任司祭に、または助任司祭に飲み物を注いでもらうだけで、信徒がどれだけ嬉しいか、今なら分かります。初めての主任司祭を経験した太田尾小教区で、お祝い会の席で民謡とかの出し物があると、よくスー

タン姿のまま飛び入りで混じったものでした。本来なら私が入ると調子を狂わせてしまうはずですが、いつも歓迎してもらい、会場は大盛り上がりでした。民謡を踊った後に一通り飲み物を注いで回ると、いろんな人からふだん聞けない話を聞くことができたのです。

「招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。」（14・10）「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。」（同 13）末席まで座りに行くと、会場の様子が手に取るように分かります。様々な不自由を抱えている人に「来てくれてありがとう」と感謝を伝えると、会場全体が喜びで満たされます。

何かを当てにしているのではありません。一人一人に、私はあなたのそばにいるよ。今日あなたが来てくれて嬉しいよと素直に伝えたい。そのためだけに末席まで行き、飲み物を注ぎ、すべての人と同じ食事を食べるのです。

もちろん、たかだか何度かの経験で、生まれ変わったように社交的な人になれるかというとそうではありません。私は基本的には社交的ではない人間です。だからこそ分かるのです。末席まで出向いて座ることは、どんな知識や経験よりも人の心を開かせるさせるということを。

初めに受けたショック。主任神父様も先輩助任神父様も末席に座って嬉々としているのに、自分は長崎教区で最も広く大きい信徒会館で一人ぼっちになっている。そのショックが、末席に座る大切さ、お返しのできない人を招く大切さを痛いほど教えてくれました。

今も、コロナは完全にはなくなっていませんが以前ほどではなくなり、会食の機会も増えてきました。いちばん楽しかった時代が、もう一度やって来ることを心から願っています。末席に座ってお酒を酌み交わし、嬉々として宴会を楽しむ日が一日も早く来るように、「へりくだる者を高められる」主に願いましょう。

14:1 安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。
◆客と招待する者への教訓
14:7 イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。
14:8 「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、
14:9 あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかいて末席に着くことになる。
14:10 招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。
14:11 だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」
14:12 また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。
14:13 宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。
14:14 そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

年間第 23 主日(ルカ 14:25-33)